



学校だより 10月

平成30年9月28日 横浜市立芹が谷南小学校

演技の調和と 自分らしさの 表現

学校長 高木 篤子



「芹南ピック」に向けて、各学年や全校で競技や演技の練習を重ねてきました。中でも、運動会を華やかにする演技では、日に日に集団の動きとしての調和がとれるとともに、一人一人の自分らしさが表現されています。各演技に込めた思いをインタビュー形式でご紹介します。

Q: 1・2年「レッツパーティー～アンダー・ザ・シー～」をミュージカル風に構成した坂田先生、子どもたちがより楽しく踊るために、どのように工夫しましたか。

A: 音楽の中に子どもたちの言葉を入れて、ストーリー仕立てにしました。一人一人が自分で選んだ海の生き物になって、とってもかわいらしく踊ります。最後に手袋を使った表現の工夫もあります。どうぞお楽しみに。

Q: 3・4年「ムカイカゼ ～ダイナミックエイサー～」のオリジナル振付を考えた戸田先生、沖縄等の伝統芸能への初めてのチャレンジですね。動きのポイントを教えてください。

A: 動と静を意識して、腕をしっかりと伸ばしたり脚を高く上げたり、迫力ある動きとなるようにしました。「ソーラン節」の動きも一部取り入れています。「ゆいまーる」という沖縄方言の意味から、エイサーの踊りを助け合って創り上げようという気持ちで取り組みました。

Q: 5・6年「心をひとつに ～Hero～」の演技を中心となって指導した岡田先生、「芹南ピック」を成功させるために活躍している高学年の演技への取組について、お話を聞かせてください。

A: 高学年として様々な役割を担っている5・6年が、全校のヒーローとして輝くように選曲をしました。心を一つにして、全体で動きのタイミングを合わせるように努めました。ダンスと組体操の調和もご覧ください。

Q: 特別ダンスクラブ 26名は、6月から週2回の朝練習を続けてきました。指導者の宮坂先生、ダンス“*What makes you beautiful!*”の見所はどこですか。

A: テーマは「かっこよさ」です。ダンスの半分は私が振付をし、あと半分は子どもたちが考えました。子どもたちの思いを生かした創作であり、チームとしてのダンスの中で、グループで踊ったり、一人一人が違う動きで踊ったりします。木村先生と小林先生と3名で担当しました。

休み時間には、体育館から応援団の音が響き、校庭をリレー選手が走り、壇上で開閉会式のリハーサル。校舎内でも、高学年の各係が放送・用具・審判・採点などの打合せや、旗やマスコットなどの作製。子どもたちの姿から、本番までの一つ一つの取組が大切だと感じています。

子どもたちとともに創り上げる「芹南ピック」、ご声援とご協力をよろしく願いいたします。